

## 有安さんと大庭さんの 往復書簡

---

美幸さん

こんにちは！

秋真っ盛りになって、私の地元へも遊びに来てくださる方やイベントが増えています。  
嬉しい年になりました。

さて、今回のお題「揺るがないもの」…  
私にとってはなかなかの難題で、すこしお時間をいただいてしまいました。  
なぜかと申しますと、私自身はかなり「考え方もすることも流動的」だと自覚しているからです。

それはもしかすると、自分に「芯がない」のではないかと  
思い悩むことがありました。  
絞れない弱さ、あれこれ手を出す自信のなさ。

けれども、このお題を受けて読んでいた本のなかで「いろいろなことをするという一つのことに邁進している」という一節があり、まさにこれだ！と、妙に納得した自分がありました。

そのくらい、私は移ろいの中に生きる人間です。

趣味ひとつとっても、あれこれ手を出すタイプです。  
仕事もまさにジョブホッパー。  
フリーランスとしての仕事も、「何屋です」と言わないのは、私のそんなところがでている結果かもしれません。

あれこれ手を出す理由は、元はたしかに「周りに嫌われたくないから」「できないことが嫌だから」だと思っていました。  
知らないのが怖い。なんでもできる人でいたい。  
そんな奢りもあったと思います。

けれども、海外で体調を崩して倒れてしまい（この話はまたいずれ）、完全に戦闘不能状態に陥ったことがきっかけで、そうではない部分に気づきました。

## 有安さんと大庭さんの 往復書簡

自分が完璧になんでもできるわけがない。  
だから「できなくてもいい」「努力なんていらぬ」という理由にはなりません、そう理解できたのは怪我の功名だったでしょう。

ところが、ある意味開き直りの境地に達した私はなお、知識欲や旅したいと思う、渴望にも似たものが自分のうちにあることに気づきます。

そう、私の構成成分はほとんどが  
「好奇心」だったのです—  
これは本当に子どもの頃からで、かわらないところです。理科室の人体模型をずっと解体したり、大人も腰を抜かす肝試しツアーを仕立てたり、叱られることをたくさんしてかしました。

あれこれ手を出すのは、好奇心から。  
こればかりは生まれ持ったものも大きいと思われ、変えようと思っても変えられません。  
おばあちゃんになったとき、どなたかにご迷惑をおかけしてしまうかもしれません（いまも多分そう）。

「人の口に戸は立てられぬ」ならぬ  
「大庭の興味に蓋できない」です…困ったな…

「方法にこだわらずお手伝いしています」と、仕事ではお伝えしておりますが、これができるのは好奇心の副産物かもしれません。  
いまのところは喜ばれているようですし、誰しも持ち味を活かせれば喜びを与える側になれるのではと感じます。

美幸さんには特技や強みが生み出した副産物がありますか？なにかたくさんありそう！  
ぜひ、お聞かせくださいね。

巷でインフルエンザが流行るなど、もう冬の支度が必要そうなこの頃です。

寒いエリアへの出張を予定しておりますので、また旅の話をお届けできたらなあと思っています。



出張のついでに夫のおっかいでガンダムの近くに行きました。まったくの門外ですが、すぐそこにドックがあるのに上らない選択肢はなく—

愛実さん

こんにちは。

私は寝るのがとても好きなので、  
結露に悩まされる寒い朝に、ヌクヌクとしたベッドから抜け出すことに  
強い意思が必要な時期がやって参りました。

さて今回のテーマは  
「特技や強みが生み出した副産物」でしたね。

いやぁ、今回のテーマはなかなか難しくて苦労致しました。

書き悩んでいたところで、ある方に褒められたことがありましたので、  
それについて書き進めたいと思います。

実は最近、半年間タイアップをさせていただいていた方と離れることになりました。  
離れる原因となったのは、コンサルからの助言により  
顧問契約を結んでいただくようお願いしたことが発端だったのですが、  
その返答が何とも当たりのキツイものでして。

私の経験不足や対応不足もあったのですが、久々に頭を抱えるものでございました。  
それをコンサルの方に相談したところ、対応の仕方をご助言いただいたので、  
改めてお相手の方と真摯に向き合おうと試みたのですが、  
残念ながらそれきりとなってしまいました。

お相手の方にご不快な思いをさせたしまった申し訳なさに加え、  
私に対する攻撃的とも取れる言葉の数々が胸に刺さり、  
正直しばらくは落ち込んでおりました。  
ですが、棘のある物言いではありましたが自分の中で足りなかったと思い当たる節もあり、  
考えを改めました。

「私の詰めが甘かった」  
「いい勉強になった」  
「これを是非次回に活かそう」  
「痛いところを突いてくれた」  
「私に足りないものが明確になった」

などと、氣付きをいただいたことに感謝するようにシフトチェンジ致しました。

そうして過ごしていた中で数日後、コンサルの方より  
「お元気ですか？あれから体調を崩されていませんか？」とご連絡をいただきました。

私は先程のように気持ちを切り替えておりましたので、そのようにお返事致しますと  
「流石ですね。私が美幸さんの立場なら体調を崩したり、  
他の仕事に支障をきたす場合もありますのに。  
是非そのマインドを大切になさってくださいね。  
そんな美幸さんを必要としてくださる方は絶対にいらっしゃいますので!!」  
と心強いお言葉を頂戴しました。  
プラス思考に加えて切り替えが早いところも私の強みなのかもしれません。

この話には後日談がございまして、  
その方と離れてからその方が投稿されている記事を拝見する機会がありました。

記事の中で目にしたのは、ビジネス相手に対してマウントを取っておられたこと。  
「〇〇はレベルが低い」など。  
ビジネスをする上で私が大切にしていることは、年齢や経験の違いはあれど、  
お互いにリスペクトしあう関係でいたいということです。  
その方の本音が垣間見えた時、私は離れたことにホッとしておりました。

それらの副産物が何かと問われましても、なかなか難しいものではあるのですが、  
こういったマインドを講座にしてお伝えできているのは、  
私の人生経験の副産物なのかもしれません。

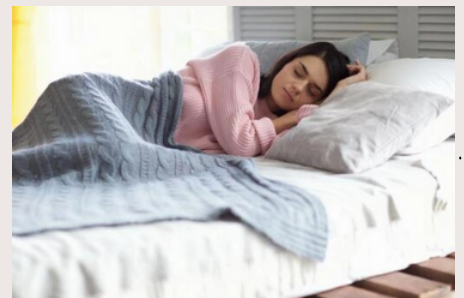
そんな私は最近、異業種交流会に入会致しました。  
沢山の方とお出会いさせていただく中で、大きな氣付きと向き合えることが増えました。  
新たな氣付きは私を成長させてくれる素晴らしい機会。  
良いことも悪いことも全てが積み重なって、分厚い人生経験となっていくからです。

私は転んでもただでは起きない図太い精神の持ち主なのですが、  
愛実さんはご自身が傷付いてしまった時やマイナスな局面に立たされた時、  
どうやって対処されていらっしゃるのでしょうか。  
愛実さんのパワーの源を教えていただきたいです。

最近グッと寒くなりお鍋が恋しい季節となりました。  
そう言えば1年前は大好きな蟹についてお手紙を書いていたなあと思い出しました。  
今週末は少し贅沢をして蟹を堪能してまいります。

それでは、御身体をご自愛いただき楽しいクリスマスシーズンをお過ごしくださいませね。  
それでは、また♡

美幸



私は一晩寝ると切り替えられるタイプ。  
「何とかなる」「何とかしかならない」  
という考えがあるのでしょね(笑)